

令和4年度（2022年度）浜中町立茶内小学校グランドデザイン（学校経営方針）

【説明要旨】

令和4年4月1日（金）

浜中町立茶内小学校長

1 グランドデザインに対する考え方

- 引き続き、今年度の学校経営方針について、お手元のグランドデザインに基づいて説明します。
- まず、グランドデザインに対する私の考え方をお伝えします。
- グランドデザインとは、学校というチームが進むべきゴールが示されていて、そのゴールに到達するために何に取り組めばよいのかを端的に示したものであると考えています。
- 皆さんには、これから分掌や学級などのお仕事をお願いしますが、常にグランドデザインに示された内容を踏まえて、当事者意識をもって各種取組や実践を行っていただきたいと考えます。
- 私自身も、授業参観後のフィードバックや、子どもや保護者に話をするとき、皆さんと様々な協議をするときなど、グランドデザインに示された内容に触れ、年間を通してしつこく伝えていきたいと考えてます。
- また、私はグランドデザインは校長単独で策定するものではないと考えています。
- 先ほど「サーバントリーダーシップ」を発揮したいとお話したことから、次回のグランドデザインの策定に当たっては、皆さんに参画していただいて、一緒につくっていきたいと考えます。
- なお、今回は年度の始まりに当たり、学校経営方針が示されなければ、皆さんの今後の業務に支障をきたすと考え、私の方で作成してしまいました。
- 1回目の学校評価を実施するまでは、この内容を踏まえて各種業務を進めていただきたいと考えますが、何か不明な点やあまりにも現実とかけ離れていると思われるような内容があれば教えてください。

2 グランドデザインの様式

- 次に、グランドデザインの様式について確認します。
- 皆さんが御存知のとおり、学校における全ての教育活動は、学校教育目標を実現するために行われます。
- そのため、学校教育目標を上段の中心に据えています。
- そして、学校教育目標を実現するに当たり、教育基本法などの法令や北海道教育推進計画、釧路管内教育推進の重点を踏まえること、更には本校の設置者は浜中町教育委員会であることから、浜中町の教育基本理念や基本目標など、浜中町教育行政執行方針を踏まえて、学校経営、学校運営を進めていく必要があります。

- 2段目には、「目指す子どもの姿」が示されています。
- これについては、先ほども説明しましたが、本校の学校教育目標を社会に開かれた教育課程の視点を踏まえ、具体的に示しました。
- 3段目は大きく変更しました。
- 当初は、「学校課題」となっていたのですが、学校として目指すゴールが「課題」ということに違和感を覚えました。
- そして、学校教育目標の実現を最終ゴールとするなら、今年度はここに焦点化して各種取組を進めたいと考え「重点教育目標」としました。
- また、語尾が「～の育成」となっていたのですが、これでは子ども自身の目標になりにくいと考え削除しました。
- 更に、「自己肯定感・自己有用感」を分かりやすい言葉に、「未来にたくましく生きる子ども」を「未来社会で活躍できる子ども」に変更しています。
- なお、この重点教育目標についても、学校教育目標同様、まず私たち大人が目指すべきであると考えます。
- そのような視点で見えていくと、次の段の「令和4年度『重点教育目標』を実現するために私たちが取り組む『これだけは』」が理解しやすくなると考えます。
- 改めて、中段の「これだけは」を御覧ください。
- 「これだけは」としながら、6区分16項目にもなってしまいました。
- 設定の視点は、今、そして今後、学校に求められる内容を精選しました。
- 当たり前に取り組まれることは省きました。
- 「1 授業改善等」の1つ目の「○」を御覧ください。
- 学力や体力の全国調査、浜中町独自の学力調査、チャレンジテストなど、子どもたちの学力や体力の状況を把握するとともに、皆さんが自身の指導を振り返る機会は豊富にあります。
- 子どもたちに、未来社会で活躍できる資質・能力を育むために、この機会を全員が有効に活用することが大切です。
- 全員で調査問題を解いてみる、分析担当者だけではなく、当該学年の指導に関わっている、または関わった者たちがチームとなって結果分析に当たり、改善策を打ち出すなど、全員が参画した検証改善サイクルを確立するようお願いいたします。
- 2つ目の「○」を御覧ください。
- 昨年1月に中教審が答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」を公表し、その中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示されました。
- この2つの学びが、これからの学習活動の核になることは間違いありません。
- そして、この2つの学びの核心を突いた言葉が「自己調整力」であり、つまりは子ども自身が学習のPDCAを回すということです。
- 日常の授業改善、そして家庭学習の取組において、子どもたちに自己調整力が育ま

れるようお願いします。

- 3つ目の「○」を御覧ください。
- 釧路教育研究所がまとめた「釧研紀要 第74集」に高橋教諭がまとめた「研究実践紹介」が掲載されていました。
- それを読ませていただきましたが、「主体的に学ぶ子どもの育成」をテーマに位置付け、その実現に向け、学校全体で学習評価と関連を図った日常の授業改善に取り組んでいる様子をうかがい知ることができました。
- タイムリーな研究内容であるとともに、学校全体で校内研究に取り組む体制が整っていることは、本校の強みであると考えます。
- 今年度が3年次計画の最終年度になります。
- 昨年度の成果と課題を踏まえて、今年度も精力的に取り組を進めていただきますようお願いします。
- また、「個別最適な学び」の中に、「学習の個性化」が示されました。
- これは子どもたち自身が課題を見付け、その解決に向けて自ら学びを進めていくことで、これは私たちにも当てはまることだと考えます。
- 現在の業務に取り組む中で課題になっていること、自身の将来への投資として、こんな勉強をしてみたいなど、それぞれ考えているのではないのでしょうか。
- そこで、個人テーマを設定し、個人研修を進めてみてはどうかと考えます。
- もし同じようなテーマであれば、グループで取り組んでもよいと思います。
- 研修の成果として何かをつくったりすることは考えてなく、年間のどこかで交流する機会を設けて、互いの力量の向上につなげられたらと考えます。
- 全体研修と個人研修を通して、現在、そして今後求められる教職員としての力量を見付けるようお願いします。

- 「2 学級経営の充実」の1つ目の「○」を御覧ください。
- 子どもたちが学校生活の大半を過ごすのが学級です。
- 学級での生活から子どもたちは、他者を思いやる力や自分の考えをもつ力、自分の考えを表現する力、チャレンジする力など、未来社会の創り手となるために必要な資質・能力を獲得すると言っても言い過ぎではないと思います。
- 通常学級、特別支援学級とも、全ての学級において「心理的安全性」の醸成を図っていただくようお願いします。
- なお、心理的安全性の醸成に当たっては、全員が学級として目指すゴールを言える、互いに認め合える、弱みをさらけ出せる、この3つが大切です。
- 2つ目の「○」を御覧ください。
- 「自立」とは、互いに適度に依存し合うことであり、このことを子どもたちに伝えることが公教育の使命であると考えます。

- だからこそ、子どもたちと向き合う私たち自身が、自分の足で立って、自分の頭で考え、他者と対話し協働する大人であることが何より大切です。
 - 行政時代に訪問した多くの学校では、障がいのある子どもが他人に迷惑をかけないように、少しでも健常者に近付けるようにすることを目指して、特別支援教育が行われているように感じるがありました。
 - 障がいのある子どもが自律するためにも、義務教育の9年間を通して、障がいを長所に変えていく必要があります。
 - これこそが、特別支援教育における「個別最適な学び」であり、そのためには、周囲の環境も含めて育てていく必要があると考えます。
 - 通常学級と特別支援学級の交流を積極的に進めて、子どもたちに自律を促すようお願いします。
 - 3つ目の「○」を御覧ください。
 - 本校では既に、様々な場面で「縦割り活動」が行われていると伺いました。
 - これは未来社会で活躍するための様々な資質・能力を育む上で、見事な戦略であると考えます。
 - 私たち大人の世界では、同い年の集団で活動することはまずありません。
 - 異年齢同士で活動することで、様々なアイデアが生まれたり、刺激し合って互いを高め合ったりできます。
 - 未来社会で活躍できる子どもになっていく上で、異学年同士の活動は必須です。
 - 清掃活動はもとよりですが、学校行事や総合的な学習の時間など、「縦割り活動」の場を増やしていくようお願いします。
-
- 「3 学校における働き方改革の推進」の1つ目の「○」を御覧ください。
 - 中教審答申「令和の日本型学校教育の構築」を通して読んでみると、「働き方改革」という文字が20回ほど出てきます。
 - このことから、働き方改革は喫緊の課題であることが分かりますが、私たちの身の回りを見てもそれが分かるのではないのでしょうか。
 - 全国で年間5,000人ほどの教職員が精神疾患で休職している、新学習指導要領の趣旨や内容を踏まえた授業をすべく力量の向上が求められている、そして何より、教員の人材不足です。
 - 昨年度当初、日本全国で2,000人の教員が足りなかったことは周知の通りですが、昨年度の北海道の小学校の教員採用試験の競争倍率は1.4倍、これは全国最低レベルです。
 - これらのことを踏まえれば、働き方改革は待ったなしで取り組まなければなりません。
 - そのときに、「国や道から言われたからやる」という受け身ではなく、私たちが意

識を高め主体的に取り組を進めていく必要があります。

- そのために、本校独自のアクションプランの策定と、コアチームによる定期的な業務の見直しを図っていただくようお願いします。
 - 2つ目の「○」を御覧ください。
 - 働き方改革の趣旨は、「教育の質の向上」ですが、本丸は「授業改善」と捉えています。
 - 「子どもが主語となる授業」の創造が求められていますが、これを実現させるためには、日常の授業を更に進化させる必要があります、教員には高いレベルの指導力が求められます。
 - 働き方改革は、教職員が「子どもと向き合う時間を確保するため」に行うと言われていますが、まずは「自分と向き合う時間を確保」し、力量の向上に努めていただきたいと考えます。
 - そのために、常に働き方改革の趣旨を意識し、自身の、そして学校全体の業務を見直し働き方改革を進めていただきますようお願いします。
-
- 「4 GIGAスクール構想の実現」の1つ目の「○」を御覧ください。
 - GIGAスクール構想の「GIGA」は、「Global Innovation Gateway for All」の頭文字を取ったものであり、日本語に訳せば、「全ての子どもたちの世界につながる革新的な扉」ということになり、主役は子どもたちです。
 - そして、GIGAスクール構想の目的は、「全ての子どもたちに、Society 5.0時代を生き抜くための資質・能力を育むこと」、つまり、予測困難な未来社会に何の武器ももたせることなく送り出すのではなく、「ICTという武器をもって活躍してくださいね」ということです。
 - そのためには、日常の授業やオンライン授業における端末の活用はもとより、ICT機器を活用した業務改善や保護者等との情報の連携・共有など、様々な場面でICTを活用し、学校全体の質の向上を図る「学校デジタルトランスフォーメーション」の実現を目指していただくようお願いします。
 - 2つ目の「○」を御覧ください。
 - GIGAスクール構想の実現を図る上で、私たちのICT機器の活用スキルの向上やデジタルシチズンシップ教育に関する知識の習得など、研修は必須です。
 - そのために、ICT推進教師（仮称）を中心とした年間を通じた研修を実施するようお願いします。
-
- 「5 校種間及び学校・家庭・地域の連携・協働」の1つ目の「○」を御覧ください。
 - 小学校学習指導要領の巻末に、幼稚園教育要領と中学校学習指導要領が掲載されて

います。

- これは、「小学校の教職員の皆さんは、幼稚園教育と中学校教育を見据えて授業をつくってくださいね」という国のメッセージです。
- 茶内中学校区が将来、義務教育学校になる、小中一貫校になる、そんなこととは関係なく校種間連携を進めていく必要があるということです。
- 既に様々な連携の取組が進められていると思いますが、それが何のために行われるのかを明確にして、幼稚園（保育所）、中学校との連携を加速させていただきますようお願いします。
- 2つ目の「○」を御覧ください。
- これは端的に言えば、「コミュニティースクール」のことです。
- 社会に開かれた教育課程を実現するためには、学校が目指すゴールを家庭や地域と共有し、連携・協働して、その実現を図っていく必要があります。
- 地域学校支援本部や学校評議員などと、学校運営協議会員との違いは、学校運営に責任があるかないかです。
- 地域学校協働活動を中核とした地域とともにある学校づくりを推進していただくようお願いします。
- 3つ目の「○」を御覧ください。
- 学校評価は、指導と評価の一体化を実現したり、評価者自身の自己教育力を高めたり、カリキュラムの改善充実に役立てたりするなど、学校改革にとって有効な手段です。
- 学校評価の取組により、学校経営に子どもや保護者、地域住民を巻き込み、学校経営はもとより、教育活動の充実を図っていきたいと考えますので、戦略的に学校評価を実施するようお願いします。

- 「6 子どもたちの安全確保」の1つ目の「○」を御覧ください。
- 新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、いつ、だれが感染してもおかしくない状況が続いています。
- そんな中で、安住養護教諭を中心に万全の体制で子どもたちの学びの環境づくりに取り組んでいただいたと窺っております。
- 毎日の健康チェックやマスクの着用、互いの距離の確保など、制限されることが多く、皆さんにも子どもたちにも不自由な生活を強いることになりましたが、新型コロナウイルス感染症対応を最優先した学びの環境を今後もつくっていただくようお願いいたします。
- なお、各種の行事や取組など、コロナ禍であるからできないではなく、当該の行事等のねらいを改めて確認し、どうすればそのねらいを達成できるかという視点を今後をもって対応していただくようお願いいたします。

- 2つ目の「○」を御覧ください。
 - 旭川市での痛ましい事件の報道が続いています。
 - このことについては、決して旭川市だけに起こりうるのではなく、私たちの身近に起こることも考えられます。
 - いじめに対する私たちの危機意識を改めて確認するとともに、道徳教育をはじめ、日常の取組の中で、子どもたちに人を思いやったり、いじめに毅然と立ち向かったりする態度を育むようお願いします。
 - 3つ目の「○」を御覧ください。
 - いじめはもとより地震や火災など、いつ発生してもおかしくありません。
 - 特に浜中町は過去に津波で甚大な被害を受けています。
 - 子どもたちの命を守る、このことは学校としての「1丁目1番地」です。
 - いじめや災害等に対する私たちの危機意識の醸成を図るため、各種マニュアル等を子どもたちや学校、地域の状況等を踏まえ、不断に見直すようお願いします。
-
- 以上、「6区分16項目」を今年度の学校経営方針としてお話をさせていただきました。
 - 今後、各項目について分掌等で具体的取組が行われると思いますが、取り組み方等は皆さんにお任せします。
 - 是非、皆さんお一人お一人が「子どもファースト」の視点を大切にし、当事者意識をもち、各種取組を推進してください。
 - 最後は私が責任を取りますので、思い切り挑戦してください。
 - そして、茶内小学校を今まで以上に、「子どもが主語となる学校」、「子どもが育つ学校」にしていってください。
-
- 以上で、今年度の学校経営方針についての説明を終わります。
 - 1年間、よろしくお願いします。